

授業シラバス

コース名 自転車スタンダードコース

科目名	ビルディング実習Ⅰ			授業のねらい バーナー作業やヤスリの使い方など、鉄鋼作業の基礎となる技術を習得。また、自転車フレーム制作に必要な知識を学び、プロセスや基本技法を身につける。
担当教員	村山、高橋、橋本、北島、大橋			
対象学年	1年			
必修選択の別	必修			
授業時数	384時間	単位数	12単位	到達目標 図面に沿った自転車フレーム、及びフォークを制作する知識と技術の習得。
開講期間	2025.4.1～2026.3			
授業形態	実習			
備考	実務経験有＝村山・北島(フレームビルダー)			
授業の計画展開	ビルディング実習Ⅰ-1 手加工作業(パイプクランプ・座ぐり・バイラミネート)			
	内容	パイプクランプ、パイプ座ぐり、バイラミネート型ラグ加工を通しフレーム製作に必要なヤスリ、糸のこ等の手加工作業を習得する。		
	ビルディング実習Ⅰ-2 溶接実習1(一輪車製作)			
	内容	一輪車製作に必要なパイプの溶接技法を学ぶ。		
	ビルディング実習Ⅰ-3 溶接実習2(一輪車製作)			
	内容	一輪車製作を通し自転車フレームの製作手順を学ぶ。		
	ビルディング実習Ⅰ-4 フレーム製作(フロントフォーク)			
	内容	ピストバイクのフォーク制作。		
	ビルディング実習Ⅰ-5 パーツ製作(ラグろう付け練習)			
	内容	ラグレスのろう付け方法を習得する。		
	ビルディング実習Ⅰ-6 フレーム製作1(トラックバイク)			
	内容	トラックバイクのフレーム前三角の製作を通し、ラグド工法によるフレーム製作の基礎を学ぶ。		
	ビルディング実習Ⅰ-7 フレーム製作2(トラックバイク)			
	内容	トラックバイクのフレーム後三角の製作を通し、ラグド工法によるフレーム製作の基礎を学ぶ。		
	ビルディング実習Ⅰ-8 製作テスト			
	内容	ろう付けテスト/ジグセットテスト/筆記テスト。		
履修上の注意事項	各種専門工具の使用方法を習得し、安全な作業工程を理解することが大事である。			
評価方法	学内基準の仕上がり精度評価表に沿って、各課題ごとに提出される制作物を評価。 *『授業の計画展開』にある課題毎に成績評価します。			
テキスト	学内で作成された課題要項を使用。			
参考文献	「自転車ビルダー入門」			

授業シラバス

コース名 自転車スタンダードコース

科目名	メンテナンス実習Ⅰ			授業のねらい 自転車のパーツ構成や専用工具の使い方を理解し、各種自転車の安全性を考慮したメンテナンス基礎技術を習得する。
担当教員	大槻、鈴木、濱中、竹内、遠藤、高橋、横溝			
対象学年	1年			
必修選択の別	必修			
授業時数	360時間	単位数	11単位	到達目標
開講期間	2025.4.1～2026.3			日本で販売されている主要車種(シティバイク・ロードバイク・クロスバイク)の基本的なメンテナンス方法と、分解・組み付け技術を習得する。
授業形態	実習			
備考	実務経験有＝関根・竹内・濱中(ショップ経営)、大槻・鈴木(自転車整備)、遠藤(流通卸)			
授業の計画展開	メンテナンス実習Ⅰ-1 ホイール組(シティバイク)			
	内容	ホイールを構成する各パーツの種類や役割を理解し、組み立て技術を習得する。		
	メンテナンス実習Ⅰ-2 シティバイクメカニック(基礎知識)			
	内容	シティバイクの各部名称や役割、使用工具の知識を講義、実習から学ぶ。 シティバイクの分解、組み立て、調整の技術を講義、実習から学ぶ。		
	メンテナンス実習Ⅰ-3 スポーツバイク(ヘッド&チェーン)			
	内容	スポーツバイクを組む際に調整が必要な箇所であるヘッドセットやチェーンの調整技術を講義、実習から学ぶ。		
	メンテナンス実習Ⅰ-4 スポーツバイクメカニック(ブレーキ)			
	内容	スポーツバイクを組む際に調整が必要な箇所であるブレーキの調整技術を講義、実習から学ぶ。		
	メンテナンス実習Ⅰ-5 スポーツバイクメカニック(シフト)			
	内容	スポーツバイクを組む際に調整が必要な箇所であるシフトの調整技術を講義、実習から学ぶ。		
	メンテナンス実習Ⅰ-6 パーツ研究			
	内容	パーツの性能の違いを講義と乗車体験を通して学ぶ。		
	メンテナンス実習Ⅰ-7 ホイール組(スポーツバイク)			
	内容	スポーツバイクのホイールを構成する各パーツの種類や役割、組み方を理解し、組み立て技術を習得する。		
	メンテナンス実習Ⅰ-8 ロードバイクメカニック			
	内容	ロードバイクの分解、組み立て、調整の技術を講義、実習から学ぶ。		
	メンテナンス実習Ⅰ-9 クロスバイクメカニック			
	内容	クロスバイクの分解、組み立て、調整の技術を講義、実習から学ぶ。		
履修上の注意事項	整備マニュアルに沿った作業手順で臨み、安全性を考慮した整備姿勢で作業に取り組むことが大事である。			
評価方法	学内基準の精度評価表を基準とし、組み付けが完了した車両・車輪の整備レベルを確認・評価する。 *『授業の計画展開』にある課題毎に成績評価します。			
テキスト	学内で作成された課題要項を使用。			
参考文献	「誰でもできる自転車メンテナンス」「旅する自転車の作りかた」			

授業シラバス

コース名 自転車スタンダードコース

科目名	基礎デザイン実習 I			授業のねらい ロゴデザイン、自転車フレームグラフィック、ジャージデザイン等のをデザイン構成課題を通してグラフィックソフト(アフィニティーデザイナー)の使用方法を習得し表現力を身につける。 また、自転車の誕生から現在までの歴史を学び、機能やデザイン、設計思想の変遷から現代の自転車デザインについて理解を深める。	
担当教員	橋本、内海、橘				
対象学年	1年				
必修選択の別	必修				
授業時数	264時間	単位数	8単位	到達目標 グラフィックソフトの基本テクニックを習得し、ビジネスシーンで応用できる人材を育てる。	
開講期間	2025.4.1～2026.3				
授業形態	実習				
備考	実務経験有＝橋本(プロダクトデザイナー)				
授業の計画展開	デザイン実習 I -1 アイトレ & PC 内容 文字デザインを通した発想と展開のトレーニング。				
	デザイン実習 I -2 ロゴデザイン 内容 既存のロゴデザインをリサーチ & 分析し、オリジナルロゴデザインを作成する。				
	デザイン実習 I -3 フレームカラーリング 内容 色の持つイメージや与える効果について考え、自転車フレームのグラフィックを作成する。				
	デザイン実習 I -4 ジャージデザイン 内容 カラーやロゴといった複数の要素を機能あるサイクルジャージの中で構成する。				
	デザイン実習 I -5 デザイン基礎知識 内容 幾何形態のスケッチや作図を通し、デザインに必要な用具の使い方や表現方法について学ぶ。				
	デザイン実習 I -6 自転車環境基礎 内容 一般道での走行プランの作成を通し、自転車のルールや交通法について学び、安全な自転車環境について考える。				
	デザイン実習 I -7 スケッチトレーニング 内容 自転車デザインに必要な描写表現をスケッチを通して習得する。				
	デザイン実習 I -8 自転車展示会場デザイン 内容 展示会スペースの模型作りを通し、効果的な展示会場のデザインについて考える。				
	履修上の注意事項	基本的なデザインテクニックを習得し、表現したい内容に合ったデザイン手法を選び応用することができることが大事である。			
	評価方法	提出レポート等の内容、及び図面の完成度、整合性を総合評価。 *『授業の計画展開』にある課題毎に成績評価します。			
テキスト	学内で作成された課題要項とテキストを使用。				
参考文献	なし				